

も内容物量の差はほとんど見られなかった。他の湿原に比べプラヤの湿原では水位変動が頻繁に起こり、このた

め植物の再生も頻繁であり、その結果差が見られなかったものと考えられる。

アンケート報告

会報No.38に同封しましたアンケートに、全会員の約60%にあたる143人の方から御回答をいただきました。御礼申し上げます。ここではその結果の一部を報告致します。

1. 会員構成

御回答いただいた会員の年齢構成は次のとおりです。

20～25 (才) 5 (名)	51～55 (才) 9 (名)
26～30 10	56～60 22
31～35 10	61～65 16
36～40 23	66～70 8
41～45 14	71～ 14
46～50 11	

23才から85才まで幅広い年齢構成で、平均年齢50.1才。会員の職業については、設問の仕方が適切でなかったこともあり正確な集計ができませんが、大学・研究所・博物館関係の方が35人で最も多く、小・中・高校教員32人、その他の公務員23人、会社・自営業18人とつづきます。そのほか医師、農業、主婦など多彩な会員構成になっています。学生・大学院生という次代をになう世代が4人と少ない点は、水草研究(会)の将来を考える上でひとつの課題というべきでしょう。

2. 水草研究会に対する御意見・御提言

(1) 会報の内容について

- ・むずかしすぎる。アカデミックな面に片寄らないようにすべきである、
 - ・各地の水草に関する情報を短報の形でよいからもっと載せてほしい、
 - ・水草の同定のための手引きになる記事を載せてほしい、
- 等の意見がありました。

(2) 水草研究会の活動について

- ・全国の水草の実情を組織的に調査する、
 - ・危機に瀕する水草(水辺)の保護を社会的に訴える(働きかける)、
- という提言が、何人かの人から寄せられました。

(3) その他

会の運営の実務面について、仕事の分担、パソコンの利用などについて提言がありました。

今回お寄せいただいた御意見、御提言は実行可能なものから実行に移せるよう努力したいと思っています。一層の御支援をお願いします。(事務局)

《アンケートの提言より》

◎会員の持っている水草の分布に関する情報を集大成できないでしょうか。これは非常に大変な作業量があり、むずかしいでしょうね。

これに近い考えですが、水草の分布調査のページを会報に掲載できませんでしょうか、「〇〇県〇〇市〇〇町の〇〇川で〇〇と思われる水草を見ました。」とか。

◎富士山麓を始め、乱開発と、無秩序な、自然界の開発が進められていく中で、水草が危機に直面している場所は多いようです。趣味の水草研究も大切な事とは思いますが、水草研究会もこの辺で、社会への貢献を考えても良いのではないかと思います。

① 消滅する可能性の高い水草と現場をクローズアップし、地方自治体にその保護策を実行させるというような実績を積み重ねていくような計画はたてられないのでしょうか。

② 毎年全国大会が開催される地域での調査を実施する。環境庁などから予算をとって水草の現状に関する調査を、全国の有志を募り実施する。調査結果を毎年積み上げて、全国の主要な地域の水草の現状を報告書にまとめるというような計画はいかがなものでしょうか。若い研究者の育成にもつながるような方法がとれると良いと思います。